

## プレゼンテーション雑感

国立病院機構九州医療センター  
臨床研究センター長  
岡田 靖

「人はそれぞれ事情をかかえ、平然と生きている」。人は誰も人生を重ねるごとに思わぬ困難に出くわすものですが、私はそんなとき、作家伊集院静氏のこの言葉を口にしてきました。この言葉を思い浮かべると、なぜか気が楽になり、口元が自然と微笑み、元気になります。少しシリアスな話ですが、ニーチェは人生のもっとも困難な年月に対して、ほかの年月に対してよりも、いっそう深く義務を負っていると肯定しています。すなわち、これらの困難は高所から見ると、むしろ有益であり、耐え忍ぶものではなく、愛すべきものとし、そこから自分の喜びを見出し、忠実に生きていくと述べています。「人間万事、塞翁が馬」というと、何が幸か不幸かは、振り返ってみないとわからない、予測しがたいということですが、本当は困難こそが夢や成功の礎を作り、力強く生きる意志を育てていくのだと思います。

2020年のオリンピック東京招致は、チーム日本のみなさんの素晴らしいプレゼンテーションや様々な活動によって成功し、日本中を歓喜の渦に巻きこみました。「Let me assure you!」、「お・も・て・な・し、omotenashi!」も記憶に残るプレゼンテーションでしたが、中でも私はパラリンピック代表選手で、東日本大震災も経験した佐藤真海さんのプレゼンテーションに強く心を打たれました。彼女は病で足を失い、水泳でリハビリテーションをしながら会社員となり、パラリンピックの陸上競技で記録を立

てています。大変緊張する場面で満面の笑顔を絶やさず、わかりやすい簡潔な英語で、明るく力強くスピーチする姿はひととき輝きを放っていました。これには大学の応援部チアリーダー時代の経験も役立ったと後に語っています。困難と絶望の中から、自分を救いだし、目標に向かって生きる力を与えてくれたスポーツの素晴らしさを話す姿に、これ以上ない説得力を感じました。彼女はまたスポーツを通して得た、様々な人々との関係性の中で障がい者スポーツへの理解と支援を広げる活動にも積極的に取り組んでいるといえます。

「病む人に学ぶ」医療・医学にも、困難に立ち向かい、これを克服していく強い意志が求められます。病気を身近に経験した医療者は患者を深く理解し、強い情熱をもって、その分野の発展に挑戦しています。私の場合は、広く全身循環器領域から脳血管障害の専門的な内科学と医療を確立し、全国に普及させることが夢です。これは学生時代の身内の経験がもとになっており、その後出会った恩師に導かれて、その道を歩んでいます。今は同じ志を持つ後輩や若者も増えてきて、少しずつ前進しています。

人は「事情をかかえて平然と生きる」だけでなく、困難な状況から夢と喜びを求めて、主体的に生きることが出来る。そんな勇気と希望を、今一度思い起こさせてくれたオリンピック招致のプレゼンテーションでした。